体等等夕称	『の』望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
施策等名称	の   主ましい民土冶で健康技術を日拍しまり	主管課	健康づくり推進課

## 1 施策基本情報

	抛耳	基本情報									
	現状	代と課題	代、30代の1	を育に重点を を	ど、若い世代をはじめと 置きながら、全ての人だ 原因とする骨粗鬆症、原	パ、生活習慣病の予	下防と重:	虚化予防に	こ取り組むことが		
	るべき	が将来像 き姿、基本的 きえ方)	命の延伸を		った食事や、適塩を心	がけ、市民一人ひ	とりが自	分の健康な	状態に合った食生	生活を実践し、	健康寿
			指標名称	計画策定時	2022年度目 2027年度目						
	1	朝食を食べ	る人の割合(5	歳児)	朝食を食べる人の5歳	見の割合(%)			94.00	97.00	
施	2	朝食を食べ	る人の割合(小	、学5年生)	朝食を食べる人の小	学5年生の割合(%	5)		92.00	93.00 100%	
策指	3	朝食を食べ	る人の割合(中	学2年生)	朝食を食べる人の中	学2年生の割合(%	5)		89.00	95.00 100%	
標	4	朝食を食べ	る人の割合(2	0~30歳代)	朝食を食べる人の20	~30歳代の割合(9	%)		データなし	87.00 85%以	
	5		る人の割合(4		朝食を食べる人の40				データなし	90.00 以%00	
	6	食生活を実	の予防のため 践している人の		生活習慣病の予防の減塩等に気をつけた:				データなし	72.00 75%以	
		名称個々に	合ったパラン	スの良い食事	にする			主管課	健康で	づくり推進課	
		詳細年齡、	体格など一人	ひとりの状態に	にあったバランスの良い	い食事を整えること	:ができる	よう支援し	<i>,</i> ます。		
	施	まちづくり	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年 2027年	度目標値 度目標値	柱を構成する主	<b>E要事務事業</b>	区分
	策の柱	1 離乳食教室参加者数 離乳食教室者		参加者数(人)	<b>参加者数(人)</b> 180.00		200.00 1 離乳食教室		事業	実施	
	1						0.00	2 食育事業		実施	
		2 菜」のそれ	主食・主菜・副 ろっている人 20-70歳代)	で主食・主菜	アンケートで、「朝食 E・副菜のそろってい (%)(20-70歳代)	56.00		8.00 6以上	4		
		3							5 6		
		基本政策間 名 生活習	里房│ 習慣病予防のた	めの食生活	 を実践する	主管課			健康へ	づくり推進課	
施策		辞 生活習慣病予防のため、よくかむことや、適塩、野菜たっぷり、和食の取り入れをすすめ、市」 細 た食生活を実践することで、健康寿命の延伸を目指します。							一人ひとりが自	分の健康状態	まにあっ
の体系	施	まちづくり	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2027年	度目標値 度目標値	柱を構成する主		
系	策の	1 地区料理者数	講習会参加		員が開催する地区料 参加者数(人)	690.00		0.00	2 食生活改善		実施
	<del>在</del> 2			推進員養成講座参加	90.00		0.00	3 事業費			
			加者のべ数	長生活収音: 者のべ数(人		76.00	12	0.00	4		
		3 栄養関係数	講座受講者	民館、高齢者	座受講者数(地区公 首クラブ、保健補導員 な安等)(人)	380.00		0.00	5 6		
		基本政策間	会、お達者教室等)(人) <b>衆間連携</b>		600.00						
		名 称 評			主管課						
	施策	まちづくり	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時		度目標値 度目標値	柱を構成する主	<b>上要事務事業</b>	区分
	の柱	1						人口水吧	1 2		
	3	2							2 3 4 5 6		
		基本政策間	車携						6		

施策等名称	『の』望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
旭果守石怀	『の』 主ましい及工力で使尿文分で日拍しまり	主管課	健康づくり推進課

## 2 指標等の推移と変動要因

	指標等の						<del></del>							
	本系区分 指標No.	成果指標名	計画策定時 中間目標値	2018年度	2019年度 実績値 /	2020年度 達成率(実績値	2021年度	2022年度						
	施策		<b>サドロ 10米 IIL</b> 94.00	96.00	94.00	95.00	- 「日本地							
	1	朝食を食べる人の割合(5歳児)	97.00	98.97	96.91	97.94	0.00	0.00						
	2018年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。	乳幼児健診や保	 	育課で繰り返し	」 J朝食の大切さ	を訴えている。							
z/c	2019年度													
変動	2019年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。												
要因	2020年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。乳幼児健診や保育園、幼児教育課で繰り返し朝食の大切さを訴えている。												
等	2021年度													
	2022年度													
	施策		89.00	92.00	90.00	89.00								
	2	朝食を食べる人の割合(小学5年生)	93.00	98.92	96.77	95.70	0.00	0.00						
	2018年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ	た。学校で、児童	や保護者に朝	食の大切さを	伝えている。								
変	2019年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ	た。学校で、児童	・や保護者に朝	食の大切さを	長えている。								
動														
要因	2020年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ	た。字校で、児童	や保護者に朝	度の大切さを	云えている。								
等	2021年度													
	2022年度													
	施策	却本ナ本・7 「の中国人/上半のケル)	89.00	91.00	91.00	86.00								
	3	朝食を食べる人の割合(中学2年生)	95.00	95.79	95.79	90.53	0.00	0.00						
	2018年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや増加した	:。学校で生徒や	保護者に朝食の	大切さを伝え	ている。								
変	2019年度													
動	0000Æ#													
		<b>▼ 朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した。学校で生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。</b>												
要因	2020年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した	±。学校で生徒や←	保護者に朝食の	)大切さを伝え	こている。								
安因等	2020年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した	:。学校で生徒や作	保護者に朝食の	)大切さを伝え	こている。								
因		朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した	こ。学校で生徒や(	呆護者に朝食 <i>0</i>	)大切さを伝え	こている。								
因	2021年度		c。学校で生徒や( 67.00	保護者に朝食 <i>0</i> 70.50	の大切さを伝え 69.00	60.00								
因	2021年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代)	67.00 87.00	70.50 81.03	69.00 79.31	60.00	0.00							
因	2021年度 2022年度 施策		67.00 87.00	70.50 81.03	69.00 79.31	60.00								
因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代)	67.00 87.00 定時85%から829	70.50 81.03 6に減少した。全	69.00 79.31 F代別は、調査	60.00 68.97 Eの母数が少な	いため、正確に							
因等 変動	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか	いため、正確に							
因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策りた	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか	いため、正確に							
因等 変動要	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか	いため、正確に							
因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか	いため、正確に							
因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか	いため、正確に							
因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の	70.50 81.03 6に減少した。st 調査の母数が。 母数が少ないた	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、ユ とめ、正確に出	60.00 68.97 をの母数が少な E確に出せなか Hせなかった。	いため、正確に	出せなかっ						
因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策かた 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が。 母数が少ないた 87.00 96.67	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出	60.00 68.97 での母数が少な E確に出せなか Hせなかった。 94.00 104.44	いため、正確に った。 0.00	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 5 2018年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策また 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減少	67.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか はせなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 5 2018年度 2019年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減力 朝食を食べる人の割合(40~70歳代) 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 5 2018年度 2019年度 2019年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策元 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減少	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 5 2018年度 2019年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減力 朝食を食べる人の割合(40~70歳代) 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2022年度 5 2018年度 2019年度 2019年度 2020年度 2021年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減力 朝食を食べる人の割合(40~70歳代) 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2021年度 2018年度 2019年度 2019年度 2020年度 2020年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力 た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力	67.00 87.00 を時85%から829 加傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 加傾向にあるが、 加傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 母数が少ないた 87.00 96.67 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2022年度 5 2018年度 2019年度 2019年度 2020年度 2021年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減力 朝食を食べる人の割合は、減力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増加	67.00 87.00 を時85%から829 加傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 加傾向にあるが、 加傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、』 とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、』 少ないため、』	60.00 68.97 その母数が少な E確に出せなか 1せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか	いため、正確に った。 0.00 った った	.出せなかっ						
因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2022年度 2022年度 2018年度 2019年度 2019年度 2019年度 2019年度 2020年度 2020年度 2021年度 6	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 たっての歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 を実践している人の割合 ながんから適正体重の維持や減塩等に気を	67.00 87.00 を時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 がでいる人は、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、 調査の母数が、 30.00 69.44	69.00 79.31 F代別は、調通 少ないため、』 とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、』 少ないため、』 少ないため、』 47.00 65.28 年度は増加し	60.00 68.97 その母数が少な E確に出せなか 1せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか E確に出せなか CTM 59.00 81.94 ているよう呼び	いため、正確に った。 0.00 った った った った	0.00						
因等 変動要因等 変動要因等 変	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2022年度 2022年度 2018年度 2019年度 2019年度 2019年度 2019年度 2020年度 2020年度 2021年度 6	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 生活習慣病の予防のために望ましい食生活を実践している人の割合 ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	67.00 87.00 を時85%から829 如傾向にあるが、 少したが、調査の 84.00 90.00 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 がでいる人は、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、 調査の母数が、 30.00 69.44	69.00 79.31 F代別は、調通 少ないため、』 とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、』 少ないため、』 少ないため、』 47.00 65.28 年度は増加し	60.00 68.97 その母数が少な E確に出せなか 1せなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか E確に出せなか CTM 59.00 81.94 ているよう呼び	いため、正確に った。 0.00 った った った った	0.00						
因等 変動要因等 変動要因等 変動	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2022年度 2022年度 2018年度 2019年度 2019年度 2019年度 2019年度 2020年度 2021年度 2021年度 2021年度 2021年度 2021年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 たどんから適正体重の維持や減塩等に気を作を実践している人の割合 なだんから適正体重の維持や減塩等に気を作をは増加しているよう呼びかけていく。 生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 かしたが、調査の 90.00 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 が可傾向にあるが、 が可傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、 調査の母数が、 30.00 69.44 半数だった。来	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ 少ないため、コ 少ないため、コ クないため、コ とないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか はせなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか E確に出せなか Cでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	いため、正確に った。 0.00 った った った った った った った った った った った った った	0.00						
因等 変動要因等 変動要因等 変動要因	2021年度 2022年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力 た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減少 朝食を食べる人の割合は、減少 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 たとなる人の割合は、増力 を実践している人の割合な、増力 生活習慣病の予防のために望ましい食生活を実践している人の割合 なだんから適正体重の維持や減塩等に気を付き活動に対しているよう呼びかけていく。	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 かしたが、調査の 90.00 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 が可傾向にあるが、 が可傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、 調査の母数が、 30.00 69.44 半数だった。来	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ 少ないため、コ 少ないため、コ クないため、コ とないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか はせなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか E確に出せなか Cでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	いため、正確に った。 0.00 った った った った った った った った った った った った った	0.00 0.00 Iにある。来年						
因等 変動要因等 変動要因等 変動要因等 変動要	2021年度 2022年度 施策 4 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2018年度 2019年度 2019年度 2022年度 2022年度 2022年度 2021年度 2021年度 2022年度 2022年度	朝食を食べる人の割合(20~30歳代) 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策力た 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増力 たどんから適正体重の維持や減塩等に気を作を実践している人の割合 なだんから適正体重の維持や減塩等に気を作をは増加しているよう呼びかけていく。 生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	67.00 87.00 87.00 定時85%から829 如傾向にあるが、 かしたが、調査の 90.00 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 如傾向にあるが、 が可傾向にあるが、 が可傾向にあるが、	70.50 81.03 6に減少した。全 調査の母数が、 87.00 96.67 調査の母数が、 調査の母数が、 調査の母数が、 30.00 69.44 半数だった。来	69.00 79.31 F代別は、調査 少ないため、コ とめ、正確に出 91.00 101.11 少ないため、コ 少ないため、コ 少ないため、コ クないため、コ とないため、コ	60.00 68.97 Eの母数が少な E確に出せなか はせなかった。 94.00 104.44 E確に出せなか E確に出せなか E確に出せなか Cでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	いため、正確に った。 0.00 った った った った った った った った った った った った った	0.00						

体系番号0101010802所管課健康づくり推進課

		S — 1131— S	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度					
No.		成果指標名	中間目標値	1 12 2	実績値 /	達成率(実績値	i÷目標値)						
	柱1	離乳食教室参加者数	180.00	256.00	169.00	109.00							
	1		200.00	128.00	84.50	54.50	0.00	0.00					
	2018年度	離乳食教室参加者数は、増加した。7~8か月児対象の教室を、年6回から12回に増やして実施したため。											
変	2019年度	離乳食教室参加者数は、減少した。コロナウ	<b>=</b> 。	0									
動要	2020年度	<b>変</b> 新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で4月、5月の離乳食教室を中止した。											
<b>因</b>	2021年度												
	2022年度												
	柱1		56.00	38.00	40.00	43.00							
	2	朝食で「主食・主菜・副菜」のそろっている人 の割合(20-70歳代)	58.00	65.52	68.97	74.14	0.00	0.00					
	_	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保修											
योड	2019年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保修											
変動													
要因	2020年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保留	建補導員の割合は	は増加した。									
等	2021年度												
	2022年度												
	柱2	地区料理講習会参加者数	700.00	711.00	577.00	0.00							
	1		710.00	100.14	81.27	0.00	0.00	0.00					
	2018年度	地区料理講習会参加者数は、横ばいだった。	開催回数は減少	したが、公民館	等と共催し、	参加者が増加し	た地区があった	<b>:</b> .					
変	2019年度	地区料理講習会参加者数は、減少した。保備	は補導員活動も減	少していく中で	、地区料理講	習会の回数も減	少している。						
動要	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係では	也区料理講習会に	は開催できなか・	った。								
<b>因</b>	2021年度												
	2022年度												
	柱2	<b>◆ルエル英格米日暮ば達成を加ネのぐ数</b>	122.00	122.00	60.00	0.00							
	2	食生活改善推進員養成講座参加者のべ数	120.00	101.67	50.00	0.00	0.00	0.00					
	2018年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ	人数は横ばいだ	った。									
変	2019年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ	人数は大幅に減	少した。参加者	数が減少した	ため。							
動要因	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で調	<b>漢座は開催できな</b>	かった。									
等	2021年度												
	2022年度												
	柱2	W 44 55 pr 54 4 55 55 4 5	380.00	636.00	656.00	147.00							
	3	栄養関係講座受講者数	600.00	106.00	109.33	24.50	0.00	0.00					
	2018年度	公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講	者は減少した。高	<del>齢</del> 者クラブでの	開催回数が漏	としている。体	操の需要が多	いためか。					
変	2019年度 公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講者は減少した。高齢者クラブでの開催回数が減少している。体操の需要が多いため												
動要	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で需	需要が少なかった	0									
<b>因</b>	2021年度												
	2022年度												
				#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!					
	2018年度												
変	2019年度												
動要	2020年度												
<b>因</b>	2021年度												
	2022年度												
	2022年度												

施策等名称 『の』 望ましい食生活で健康長寿を目指します 体系番号 0101010802 主管課 健康づくり推進課

3 評価・改革改善(単位:円)

		¥価·改革改善						(単位:円)					
	Ĭ	頁	目	2018年(前:	年度比)	2019年(前年	度比)	2020年(前年	度比)	2021年(前年	度比)	2022年	(前年度比)
		事	業費(円)	982,570		893,285	0.91	314,396	0.35	1,230,698	3.91		
		うち	一財(円)	68,144		65,735	0.96	248,510	3.78	62,000	0.25		
	投資額	(一 前 <sup>4</sup> 上(	減理由 ・般財源 年度以 10%場 の載 記載)					新型コロナウイルス感染・拡大防止のため、イベントや料理教室が開催できなかったため		予算の組換あり			
	進	[抄]	评価	おおむね	順調	おおむね順	調	おおむね順	調				
評価	総合		主な取組内容や成果	離乳食教室や、改善をは、改善をは、改善をは、ないでの健康をはいる。 はい ようとする人 だお きゅう ない はい はい ない はい	養助態を事がした。 地りりを事す離れる。 はないない。 はいないでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、	生活習慣病の予重症化予防のた望ましい食生活(的な方法を栄養)座で伝えてること組んだ。	めの、 の具体 関係講	おおむね順調新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座を開催することができなかったが、ホームページやビーナネットで配信した。					
	<b>合評価</b>		課題	地区料理の依頼回数 や、地区での栄養講話 の依頼や、講座の参加 者,は減少傾向にある。 地域に、食の大切さの情 報発信を行う方法を考え る必要がある。		離乳食教室はネット情報 が充実しているためか、 参加者は減少している。 地区料理講習会も補導 員活動の減少とともに回 数が減少している。		地区料理講習会など開催できず、離乳食教室 の参加者も減少した。					
改		改革	<u></u> 大容	ビーナネットや、ページを活用し事ポラットマーデンティア・重症化予防のが望ましい食生活的な方法を伝え	たり、食 を通じて、 予防や、 ための、 Eの具体	ページを活用した	cり、食 通じな、 防めの、 の具体	ビーナネットや、スページを活用した。 ページを活用した。 事ボランティを 生活習慣病のたま 重症化予防のた望ましい食生活の 的な方法を伝えて	cり、食 通じな、 防のの め具体				
改革・改		施領	化する 6の柱 <b>直</b> 点	1		1		1					
善	施策		多事業	2	Comp. Joseph rate	2	er liek rele-	2					
	泉の柱等の重点化	理	!由	望ましい食生だ長寿を目指すが実践しやすいが、ネットを活用した信や、ボランテの正しい情報を見からませた。とで、健康を発生活で、関病を発生が	さめの、 方法情報ら イ神の、 を を を を を を を を を で で を を を を で を を を を を を を を を を を を を	望ましい度生活 長寿を目指すた実践しやすい方 ネットを活用した信の正しい情報を行民が食生活を改せていた。とで、健康を維生活で関値病を予	めの、 法情報から、 発 時かて、 も も は る 、 、 発 も し 、 、 も も し 、 、 も も し 、 し 、 し 、 し る し る し る し る し る し 、 し 、	望ましい食生活を実践しやすい方法を活用した信や、ボランティの正しい情報を移民が食生活を改せませた。健康を発生活を強くといい。	め法情アリント のを報か、なましている。 発ら住る、				

作成担当者	堀 美恵	神澤 活枝	神澤 活枝	
最終評価責任者	両角 直樹	両角 直樹	依田 利文	
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月31日	